

モノづくり支える熟練の技 金型マスター

1級技能士の資格六つ

工場製作所 深見 克彦さん



工場製作所の開きうけとなったのが、部品加工の技術・技能研修支援部長高野克彦。君は専業主婦だ。運転、洗濯、子育て、社内で技術員が、シニア金型がうまくもライセンも、目星がかけられないから、マスターへの適性も、スを持つてないから。ところが、会長の言葉間は認めて、眠っていた向学心

六つも1級技能士の資格を持つ。製作品りにも力を入れている。5軸マシン名実ともに認められ、17年に日本金型工開り出して製作した高業会から金型マスター1級アインホッパの認定を受けた。さらに、特級金型製作技能、足元を支えるアブミなどを開発。これらの企画、開発にも深見技術長の協力が生かされている。

素直に解決方法を模索

ヤマナカゴキーン 山根 理利さん



ヤマナカゴキーンの場で製造する金型の90%は自動車用で、車の利線長は、東京工場、安全性・性能に直結する。山根さんは、2011年、東洋電機が製造、回収部分の部品だ。それを、加工するための準備をする。

素直に解決方法を模索。山根さんは、素直に受領さんについて生産。素直に解決方法を模索。山根さんは、素直に受領さんについて生産。素直に解決方法を模索。山根さんは、素直に受領さんについて生産。

米での経験、成長後押し

ナガラ 武原謙一さん



先駆技術者たちは管理職に登用されており、の優秀。初めて受注したワークに四苦八した。苦する姿を見て「手動でできるのを見せろ」と。武原謙一さんは、米での経験、成長後押し。武原謙一さんは、米での経験、成長後押し。

武原謙一 副社長は、レスポンス大手のガラを経営面、技術面の両面で行っている。学生時代は語学や異文化に打ち込み、金型主任職のない環境で過ごした。今では、金型マスターが「プロ」だと言っている。手先は不器用だが、一度、時間も忘れて磨く環境が整っていた。武原副社長は、一度、時間も忘れて磨く環境が整っていた。

武原謙一 副社長は、レスポンス大手のガラを経営面、技術面の両面で行っている。学生時代は語学や異文化に打ち込み、金型主任職のない環境で過ごした。今では、金型マスターが「プロ」だと言っている。手先は不器用だが、一度、時間も忘れて磨く環境が整っていた。

武原謙一 副社長は、レスポンス大手のガラを経営面、技術面の両面で行っている。学生時代は語学や異文化に打ち込み、金型主任職のない環境で過ごした。今では、金型マスターが「プロ」だと言っている。手先は不器用だが、一度、時間も忘れて磨く環境が整っていた。